

令和5年度全国学力・学習状況調査の考察

国語科

- ・選択式問題形式の正答率が高い。「説明や内容が適切なものを選択する問題」では、県平均や全国平均を超える回答が3問あった。
- ・敬語の使い方や送り仮名の問題等「言葉の特徴や使い方に関する事項」の内容に関しては、県平均に迫る解答率だった。
- ・「まとめて書く」という記述式の解答や短答式の解答が全国平均を下回った。

算数科

- ・四角形の名称や割合等の短答式問題形式の解答率が、選択式より解答率が高かった。
- ・分配法則の解答率が低かった。
- ・二次元の表から読み取ったり、図形の特徴を答える問題にも課題がある。

児童質問紙より

児童質問に関しては、全国平均・県平均より、回答がどの項目も高いポイントで、特に、生活習慣・学習習慣、自己有用感が秀でている。具体的な内容は以下のようなものである。

- ・「朝食は毎日食べる」「だいたい同じ時間に起きる・寝る」という児童は9割以上いるので、家庭での教育は安定していると考えられる。
- ・国語科や算数科の学習はどちらも「大切だ・将来社会に出た時に役に立つ」と答えた児童は9割以上いるが、それぞれの学習が「好きだ」と答えた児童は6割程度である。
- ・「学校に行くのが楽しい・友達関係に満足している」と答えた児童は8割いた。
- ・「いじめはいけない、人が困っている時は進んで助ける」と答えた児童が8割5分以上の回答だった。
- ・学校以外で学習を教わっている機会があるという児童は6割を超えている。

改善・今後の取組

国語科

- ・選択式の解答率は高いものの、短答式の正答率が記述式と同じく低い。文章問題の答え方を改めて指導する必要がある。

算数科

- ・基礎基本の定着を図る必要がある。
- ・道筋を立てて考え、学習内容を系統的に立てて理解する習慣を身につける指導に注力する。

児童質問紙

- ・学習意欲が高く、「正答して嬉しい」という機会を増やすことで、学習意欲を高めたい。
- ・放課後、学習を教えていただける機会を持っている児童が6割以上いるが、その後、自分で振り返る時間を確保できるような取り組みを検討する。